

## 第2回 NPO法人会計講座

令和元年7月

暑い日が続きますね・・・

暑いときほど・・・「会計」を勉強してみましよう??

今回は

「貸借対照表」と「仕訳」(しわけ)について御説明いたします!!

まずは、貸借対照表をご覧ください。

(借方)	(貸方)
資 産	負 債
	純資産

右側に何があるか・・・左側に何があるか・・・

そして右側は「貸」方だったっけ、左側は「何」方だったっけな・・・と「じ〜っと」見て下さい。 まだ見て下さい。。

では、貸借対照表の世界に入っていきます。

- ・左側（借方）にあるのは、法人の「資産」ですよね。

資産には、現金、受取手形、前払金など流動的なものと、自動車、土地、建物などの固定的なものがあります。

- ・右側（貸方）には、法人の「負債」と「純資産」が記帳されます。

負債は、銀行などからの「借入金」とイメージしておけばOKです。

純資産には、株主からの資本金や利益剰余金などが入ります。

(純資産については、今の段階では、あまりイメージがわからないと思いますので考え込まなくてOKです。)

今、記憶していただきたいのは、  
資産は左側  
負債と純資産は右側 ということです。

くどく言います（色を変えて・・・）

資産は左側  
負債と純資産は右側

その上で、もう一度貸借対照表を見て下さい！  
 今度は金額を入れてみました（単位は・・・なんと「円」です。）

貸借対照表①

(借方)		(貸方)	
資産の部		負債の部	
現金	6 0 0	借入金	5 0 0
受取手形	3 0 0		
前払金	1 0 0		
自動車	4 0 0		
土地	9 0 0		
建物	7 0 0		
合計 3, 0 0 0		合計 3, 0 0 0	

純資産の部  
 資本金 5 0 0  
 利益剰余金 2, 0 0 0

4 0 0 円の自動車・・・危険な香りがしますが・・・

ところで・・・

企業は全ての取引について「仕訳」という記録を行います。

具体例で説明しますね。

(例1)

800円の自動車を現金で購入した場合、企業はこの取引をどう記録（仕訳）すると思いますか？

答えはこうです。

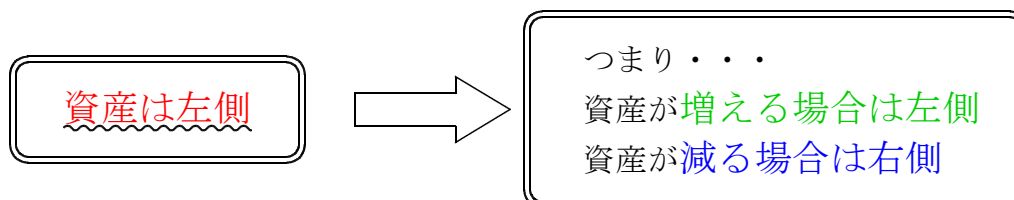
自動車 800 / 現金 800

- ・絶対的ルールとして、「/」の右と左の金額は絶対に同額です。  
じゃないとつじつまが合いません・・・
- ・謎なのが、なぜ自動車が左にきて現金が右にくるのか？ということだと思いますが、

「自動車」と「現金」って、  
貸借対照表の中の「資産」、「負債」、「純資産」のどれに当てはまると  
思いますか？

ここは、ズバリ言いますが、「資産」になりますよね。

そして、ここで思い出して下さい。



ということなのです。

自動車を買うと資産が増えるので左側  
現金で払うと資産が減るので右側 に仕訳を行うのです。

(例2)

次は、銀行から1,000円借り入れた取引を仕訳してみます。

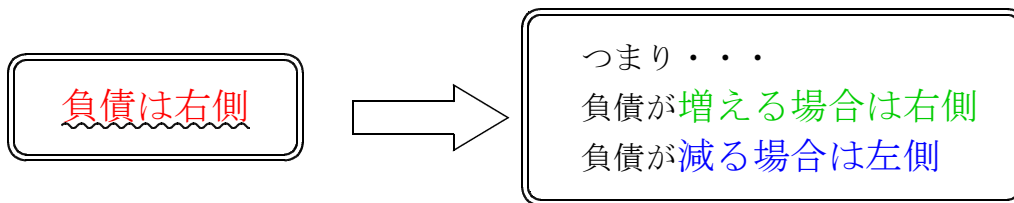
答えは・・・

現金 1,000 / 借入金 1,000 となります。

まず。

借入金は、「資産」、「負債」、「純資産」のうち、どれになるのでしょうか？

・・・「負債」ですよね。



ということなのです。

今回の取引は、  
現金（資産）が増えるので、左側  
借入金（負債）が増えるので、右側ということになります。

◎では、最初の貸借対照表に例1と例2の取引を反映させてみましょう。

反映された貸借対照表は下のとおりとなります。

貸借対照表②

(借方)		(貸方)	
資産の部		負債の部	
600-800+1000 →	現金 800	借入金 1,500 ← 500+1,000	
	受取手形 300		
	前払金 100		
400+800 →	自動車 1,200		
	土地 900		
	建物 700		
		純資産の部	
		資本金 500	
		利益剰余金 2,000	
	合計 4,000	合計 4,000	

このように、前の貸借対照表に期間中の取引を反映させて、貸借対照表が作られていくのです・・・

次回からは、「損益計算書」について、御説明していきます。

お疲れ様でした！！